

韻
の
今
と
散
の
昔

はじめに

はるか昔に起こったかもしれない歴史的出来事を、現代風の散文で書く。翻ってほとんど私の半世紀強にわたる人生で経験、体験して来た事の中から、私なりに強い印象や感銘を受けた幾つかを拾って韻文の形で残す、気がつけばこのオタク的行為に染まってから、あつと言う間に二十余年が経っていた。

平均余命はまだかなりあるはずなのだが、なぜか最近無性に風呂敷を包みたい衝動に駆られるようになる。というわけで、短いながらも読んでいただき飽きさせない自信はちよつぷりありますので、ご縁があれば味わっていただきたいと思えます。

◆ 目次 ◆

五七五	4
蛭の村	19

五
七
五

初春やまず三桁まで生きよ母

成層圏見て来た顔の奴胤

雪だるま眉毛の位置をきめかねる